

発行所
津 奈 木 公 民 館
芦 北 郡 津 奈 木 町
電 話 (78) 311111
印刷所 旭 印 刷
電 話 (水 俣) 4101 番

前 年 度

津 奈 木



前年度の草花市の風景

町あげて
ふれあい祭りを
盛り上げよう!!

少し肌寒さを感じるが、まだ／＼夏間は暖かい。やわらかい秋の日差しを受けながら皆んなで、ふれあい祭りに参加しましょう。

グリーンゲートでもその一環として『草花及び植木市』を開きま

す。

緑のある町をアピールするために、是非我が家の庭に一ついかがでしょう。町の特産品もそれぞれ開発され色々珍しい多くの品々もとり揃えてあります。

また、町民広場では賑やかにイベントがあります。

クロスカントリー競技も、町内外から楽しみにして人が集まります。仲良く住みたくなる町めざして、肌ふれあいながら楽しい日にしましょう。

一言

夏休みも一週間を過ぎた頃だろうか、仕事の合間にちよつと家をのぞくと、テレビの前に見るともなく、マンガの本を広げながら小学生の娘がすわっていた。「どこも遊びに行かんとね」と声をかけると、「どこも遊ぶ所はなかし、おもしろなかも」と娘いわく。夏休みの喜びも、日がたつにつれ退屈さと倦怠感がつのってきたのか、毎日がテレビにマンガで日が一日を過ごしていたようだ。

そんな娘を見ていて、何となく今の子ども達の生活が思い起こされ、かわいそうな気がしてきた。私達の小さい頃の夏休みといえば、朝は早くから、海や川に直行泳いだり、魚釣りをしたりと真っ黒になつて遊びに遊んだものだったのに……。今の子どもにそんな話をしても通じないだろうが、海に行っても泳ぐところは指定され、川はコンクリートで固められ、しかも汚れていて、魚釣りはおろか水遊びさえできない。

子どもながらに知恵を働かし、遊びのネタを探し、自由気儘に子ども時代を過ごす。人生において最も大事な、そして必要な思い出づくりの時期なのに……。

こんな子ども達の将来に思いを馳せながら、暗たんたる気持ちにさせられるのは私だけでしょうか。

(K・N)

町民体育祭

三地区初めての総合優勝

天高く、さわやかな秋を満喫、体育の日十日、雲一つない秋晴れの下で町民体育祭の最後を飾る陸上競技大会が、総合グラウンドで町民総出のなやかな大会が繰り広げられました。

今年はいよいよ競技も実施され、競技種目も二つ変更「ナイスキャッチ」と水運びリレー」が実施されました。これは楽しく、だれでも参加できるようにと色々意見を出し合って決定し行われました。

競技では、日頃の練習の成果をこころとばかり発揮する人、また足に自信のない人は、障害競技でテクニックで見せ場をつくり楽し



水運びリレー



そうに競技に参加しておられた。町民体育祭の成績は得点表のとおりですが、今年度初めて大浦、福浦、平国上と三地区が総合優勝これは明るいニュースであり、とても素晴らしいことだと思います。最後に町民体育祭が町民の皆さんからしなまれる大会になるように努力したいと思っています。

平成 7 年度 町民体育祭総合得点表

地区名	男ソフト	女 ミニバ	野 球	競 舟	陸 上	総合 順位	地区名	男ソフト	女 ミニバ	野 球	競 舟	陸 上	総合 順位
竹 中	雨天 の 為 中 止	19	9	14	8	50 10位	内 野	雨天 の 為 中 止	9	15	7	4	35 16位
染 竹		16	9	17	18	60 6位	上 下 門		18	17	7	9	51 9位
浜 崎		12	9	7	10	38 15位	川 内		欠場	9	14	1	24 19位
桜 戸		9	9	14	17	49 11位	福 浦		20	15	14	16	65 1位
町 中		9	9	1	5	24 19位	平 国 上		16	17	19	13	65 1位
新 川		16	15	14	11	56 7位	平国下・辻		9	19	16	19	63 4位
古 川		9	15	7	3	34 17位	日 当		9	9	18	20	56 7位
大 泊		16	15	20	14	65 1位	日 添		9	15	16	21	61 5位
中 尾		9	9	14	12	44 14位	小 津 奈 木		9	9	14	15	47 13位
古 中 尾		12	欠場	7	8	27 18位	丸 岡		12	欠場	欠場	2	14 20位
倉 谷		18	18	7	6	49 11位							



第20回芦北郡合同青年国内研修(北海道へ)

九月十四日から十七日までの三泊四日で青年国内研修が実施されました。研修地は北海道の「札幌・帯広・十勝郡浦幌町」で参加者は研修生男三名、女九名、引率二名の全員で十四名、この研修会は今年度で二〇回になり、記念する研修会になりました。

本町の研修生は女性ばかりの四名、今回は男性が多かったのが始めは交換研修が心配でしたが、いざ研修となると男性よりも彼女達が積極的に北海道の青年達と色々話し合っていました。

もちろん芦北郡研修生同志も三泊四日の研修期間でしたが、事前学習会を二回実施したせいか、今まで以上に交流を深めることができたと思います。これまで本町の青年達が百名ばかりこの研修に参加しております。

研修の成果はすぐには出てきませんが、国内研修に参加した青年達は職場、PTA、婦人会等それぞれ地域で一生懸命に頑張っております。



お知らせ

- 熊本県美術家連盟展示会
期日 平成 7 年11月 8 日～12 日 15 時まで
場所 津奈木町改善センター
- 部落解放(第 9 回)熊本県研究集会開催
期日 平成 7 年11月 18 日～19 日
場所 水俣市総合体育館
(注) 津奈木町へ150名の参加割当がありましたので各種団体、職場等へ参加依頼をしたいと思いますのでよろしくお願いします。
- つなぎふれあい祭り'95
期日 11月 11 日～12 日
皆様の総参加をお待ちしております。

津奈木の地名のおこり② 何処と何を つなぐか

延喜式の頃よりずっと昔の官道が通っていた菊池市出田に車地という地名が残っている。平坦なところでは道幅が十米もあつたといわれる。

江戸時代の薩摩往還の道幅を見るのに、歌坂で両側を一米ほど掘り下げたところを見ると、せいぜい三米、重盤岩眼鏡橋が四・五米大八車が三太郎峠を越えることなど想像もできない時代、荷物の搬送は人の肩が馬であった。佐敷宿から水俣宿まで一人が荷を背負って歩きとおすことは難儀なことである。

手をつなぐ、舟を繋ぐというのは、津奈木の地名となるには印象がうすく曖昧である。舟をつなぐのは水俣でも佐敷でも、何処にも漁港はあるのだから、特に津奈木だけに限ったことではない。

街道に設けられた宿と宿をつなぐところが津奈木というのは、往來する旅人にとって、佐敷と水俣の間のけわしい峠を越えたところにある村との印象は強く残るであろう。何処の地名でも、万人が納得してはじめて共通の記号として



油彩「バンセン又古城」 1964年
境野 一作

長き回廊を巡らば、目に浮かぶ
歴史のうねり。
強者どもが夢の跡・・・
栄枯盛衰・・・
高きアーチを渡らば、吹きぬける
歴史の風。
幾度か美しく、幾度かみにくく
彩られし夢。

庁舎美術館 (62)

地蔵まつり



内野から倉谷につながる狭い気味悪い日の越え山道の上に、雨ざらし日ざらしに、建てられてあつた金山地蔵様でしたが、広い町道ができ芦北プラント工場が建設された時お堂を建てお祭りを計画した

ぼくは、海底二万里という本を読みました。

その物語の主役は、ノーチラス号という潜水艦です。この潜水艦が、色々な船をあたりにし、しずめるので、リンカーン号という艦が調べにくいという話です。この話で、ぼくが、一番心に残ったのは、ネモ艦長がピアノをひいている所でした。

さみしい曲をひいて悲しんでいるネモ艦長が、とてもかわいそうでした。

初めは、ネモ艦長が「なぜ悲しんでいるのかなあ。」と不思議に思いました。それに、なぜ潜水艦が、船におそいかかるのだらうかと、思いました。するとネモ艦長



読書感想文

「海底二万里」を読んで

赤崎小4年 篠原 陽一郎

が、リンカーン号の人たちにこう言いました。「わたしは、戦争で、家族をうしなつた。」と。ぼくは、やっとネモ艦長が悲しんでいるわけがわかりました。ネモ艦長は、家族のかたきをとるために、船をおそつていたのでした。ぼくは、戦争で家族をうしなつた艦長の悲しみが、分るような気がしました。けれども、つみもない人々をまきぞえにするのは、まちがっていると思いました。でもそうさせた戦争が、一番悪いのかもしれない。話は変わりますが、最後の方で、はかせたちは、潜水艦から出た後、うずうずまきこまれの近くの島に流れ着いたというのに、島の人の話によると「潜水艦なんか見なかった。」というのです。いったいノーチラス号とネモ艦長は、どこへいつてしまったのでしょうか。この話を読んで、戦争は本当に悲しいことだと、つくづく思いました。

は各地区老人会対抗ゲートボール大会を千代塚にて行い、午後五時より地蔵祭典が行われ光明寺に住職様より講話を頂き其の後、芦北プラントより参拝者に接待をして頂き地域住民と工場と子供と老人とのふれあい交流を深め、和気あいあいの楽しい公民館活動地蔵祭りでした。(林田祐一)

ここに、こんな人が・・・

有機農業に魅せられて
林田 祐一さん (内野)

内野地区の区長、民生委員として活躍しておられる林田祐一さん(六十才)を訪ねました。林田さんは昨年からEM菌有機農業に取り組んでおられましたので、今回はEM菌についてお尋ねしました。



EM菌(有効微生物群)は酵母菌や乳酸菌などの分解に有効な細菌を組み合わせた集合群で、これにもみかや米ぬかを混ぜ

て今注目されているそうです。昨年水俣で行われた講演会でEM菌有機農業のことを知り、軽い気持ちで取組み、買い求める時は高いと思っていたが、薄めて使うこともあつて、収量増を差し引いても、数字では表わせないが、おつりがくると話される林田さん。連作障害もなく、白菜や大根なども柔らかくおいしい野菜が食べられる等、話を伺っていると興味を沸かす時間があったのも忘れ話に花がさきました。又、若いとき一時小学校の先生も経験されたそうです。多方面にわたって活躍され研究熱心な方だなと感心しました。(石田記)

津奈木駅17時25分発・23時22分着

も少なく、発車、次第に速度も加速され、十八時五十八分熊本駅到着です。

会議が終り、帰りは、熊本駅二十時五十七分発出水行最終列車です。今度は、帰りの遅くなった高校生、OL、顔が少し紅潮した

鶴野 一 洋

サラリーマン風の人など様々です。三編編成の列車の座席は、あつという間に満席になり、かけ込み乗車の多い私にとっては、座れないことも度々あります。

八代駅に到着すると、乗客もぐつと減り、日奈久駅を過ぎると、対面四人掛けの座席を、一人で占有できるようにあります。

つい最近までは、車内は、読みの新聞、週刊紙、空き缶などゴミの山で車掌さんは、車内清掃に苦勞されていたようですが、普通車が、全車禁煙になってから



少年少女サークル活動 「染竹川探検」

今年九月に発足しました津奈木町少年少女サークルクラブ(四十名)の紹介をいたします。この団体は、学校外活動の促進と異年齢

佐敷駅を過ぎて、乗客は、私ただ一人ということもありました。最終列車とはいっても、八代以南の利用客の状況をみると、この列車はいつか廃止されるのではないかと、不安さを感じます。そして、ここでも、水俣、芦北地域の過疎化の現象を象徴しているのかと、一抹の寂しさを感じるの私に、津奈木駅着は、二十時三十二分です。(歯科医)

短歌

宮崎 優選

秋立ちし気配未だし草むらに柿のわくらば赤きを拾う 寺本ツルヲ

白浜美和子

安曇野の沢の流れは清らかにわさびの中に人影の見ゆ 西 滋子

一人居の夜の畳にあらはれぬ蟻は働くさだめを持ちて 野田浦子

雉たちしあとに七個の卵あり心わびれど雉は帰らじ 柳迫いづも

待ちわびし今日は孫等の祝いなり二人の幸福そと見守る 福田八重子

夕月は地のはてまでも照しているテ

今月の秀歌

宮崎 優

シャネル五番名さえ知らざる香水を土にまみれる吾れもいらしが 野田浦子

大嫌い 鏡に写った二段腹 菊次郎

大嫌い 大河ドラマのパロメータ 菊次郎

大嫌い 地球泣かすシラク殿 菊次郎

大嫌い 野菊のこたる人想う 達生

大嫌い 菊花展と打つ立って見に行こか 万葉

大嫌い ねちねち言うてる男 (次笠)とそ気嫌、思い出し 一笠二句すつ十二月十三日まで つなぎ文化センターへ

肥後狂句